

札幌市環境白書の発行にあたって(市長挨拶)

特集

- ☆環境に関する世界、日本の動き
- ☆札幌の環境のいま

本編 札幌市の環境の現状と対策

第1章 第2次札幌市環境基本計画の概要

- 1 計画の位置づけ
- 2 計画期間
- 3 札幌市が目指す将来像
- 4 将来像を実現するための5つの柱
- 5 SDGsとの関連性
- 6 点検・評価

第2章 5つの柱における取組の進捗状況

第1節 健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現

- 1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標
- 2 2030年の姿に対する現状と課題
- 3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向

第2節 積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現

- 1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標
- 2 2030年の姿に対する現状と課題
- 3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向
- 4 主な関連計画とその進捗状況

第3節 資源を持続可能に活用する循環型社会の実現

- 1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標
- 2 2030年の姿に対する現状と課題
- 3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向
- 4 主な関連計画とその進捗状況

第4節 都市と自然が調和した自然共生社会の実現

- 1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標
- 2 2030年の姿に対する現状と課題
- 3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向
- 4 主な関連計画とその進捗状況

第5節 環境施策の横断的・総合的な取組の推進

- 1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標
- 2 2030年の姿に対する現状と課題
- 3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向
- 4 主な関連計画とその進捗状況

参考資料

- 1 札幌市環境基本条例
- 2 環境基準等
- 3 札幌市の環境保全年表
- 4 環境保全に関する問い合わせ先

札幌市環境白書の発行にあたって

市長メッセージ

特集

環境に関する世界、日本の動き

環境に関する最新の動きを含めた状況を記載

札幌の環境のいま

令和元年度の環境に関する札幌市の動きをピックアップ

- 2050年二酸化炭素排出実質ゼロを表明
 - ・ LEED for Cities and Communities 認証取得
 - ・ 災害時の避難所等における次世代自動車からの電力供給の協力に関する協定

・・・

- ヒグマとの共存

➤ ・・・

本編 札幌市の環境の現状と対策

第1章 第2次札幌市環境基本計画の概要

1 計画の位置づけ

環境基本計画の位置付けについて記載

札幌市環境基本計画は、1995（平成7）年に制定した「札幌市環境基本条例」に基づき、環境保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的として、1998（平成10）年7月に策定しました（2005（平成17）年に一度改定）。

計画改定からおよそ10年が経過し、計画期間が2017（平成29）年度で終了することから、本市におけるこれまでの環境問題に関する社会情勢の変化に対応するとともに、本市及び地球規模での環境問題の解決や将来に向けた環境政策のさらなる推進を図るため、「第2次札幌市環境基本計画」を策定することとしました。

<札幌市環境基本条例（抄）>

第8条 市長は、環境の保全に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、札幌市環境基本計画を策定しなければならない。

2 環境基本計画には、次に掲げる事項を定めるものとする。

- （1） 環境の保全に関する長期的な目標
- （2） 環境の保全に関する施策の方向
- （3） 環境の保全に関する配慮の指針
- （4） 前3号に掲げるもののほか、環境の保全に関する重要事項

2 計画期間

環境基本計画の計画期間を記載

本計画における計画期間は、近年の社会情勢の変化や国の地球温暖化対策計画、本市の温暖化対策推進計画における目標年度などを踏まえ、以下のとおり設定します。

〈計画期間〉2018（平成30）年度から2030（平成42）年度まで

3 札幌市が目指す将来像

2050年に向けた札幌の環境の将来像について記載

次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市 「環境首都・SAPPORO」

- 市民一人ひとりが積雪寒冷地における生活のあり方を工夫し、改善し続けることで、将来にわたって自然の恵みを守り、札幌らしい豊かな暮らしの文化が根付いている都市
- 産学官民が協力して、地球温暖化対策や生物多様性の保全、持続可能な資源循環など、国や地球規模での環境問題の解決に率先して取り組み、国内外にその取組と魅力を発信している都市
- 北海道の豊富な自然エネルギーや資源を活用することで、エネルギーや製品の地産地消が進み、環境関連産業が発展した北海道内の経済的循環の中心となることが実現している都市

<2050（平成62）年に目指すべき目標と生活のイメージ>

◆温暖化・エネルギー

- ・札幌市内から排出されているCO₂などの温室効果ガスが現状より80%以上削減されている。
- ・札幌市内で消費されるエネルギーの80%以上が再生可能エネルギーになっている。
→電気自動車や燃料電池自動車等の次世代自動車をはじめとした低炭素な移動手段が普及するとともに、住宅や建築物の分野でも高断熱・高気密化が普及し、ほぼ道内で生み出される再生可能エネルギーで必要なエネルギーがまかなわれた生活が実現できている。

◆資源循環

- ・化石燃料や鉱物など、有限な天然資源の消費が大幅に抑制されている。
→新たな天然資源の使用が抑制されるとともに、製品・サービスの生産から廃棄に至るまでの資源循環の仕組みが構築され、天然資源が持続可能な形で利活用されている。

参考:エコロジカル・フットプリント⁷

2012（平成24）年の時点で、世界全体で人間が一年間に消費した自然資源が地球1.6個分に相当したと報告されており、私たちは将来に残していくべき資源をすでに消費している状態です。

また、世界中の人が日本人と同じ暮らしをした場合、一年間に必要とされる資源の量は地球2.9個分となることから、日本は資源の循環利用を進め、現在の消費スケールを2分の1以下にすることが求められています⁸。

4 将来像を実現するための5つの柱

「5つの柱」についての説明と
主な関連計画との関係性について記載

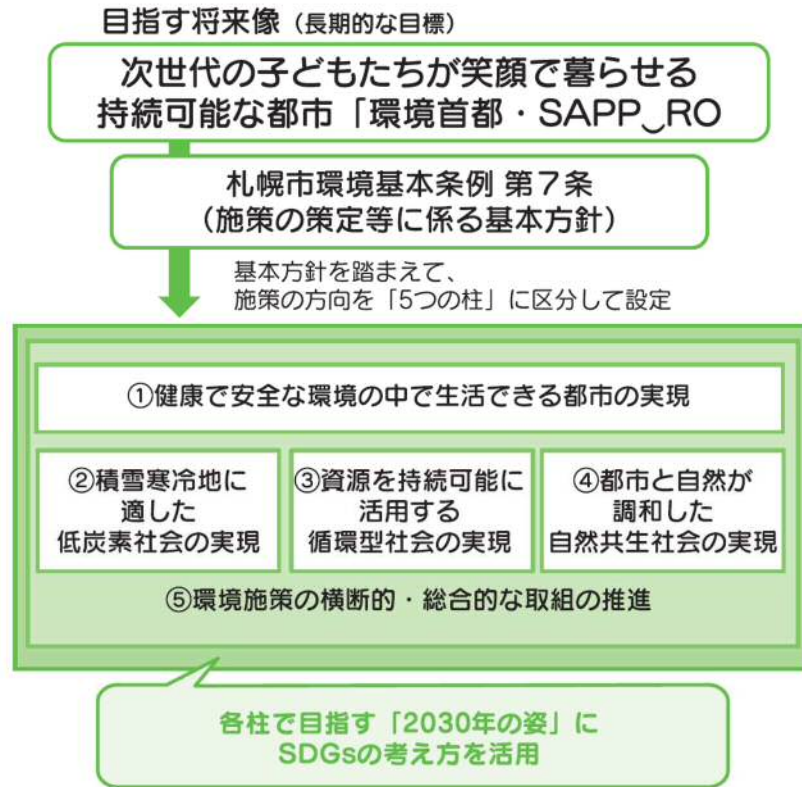


図14 5つの柱の設定

◆将来像の実現に向けた5つの柱と主な関連計画の関係（◎：特に深くかかわる、○：深くかかわる）

	札幌市温暖化対策推進計画	札幌市エネルギービジョン	札幌市役所エネルギー削減計画	生物多様性さっぽろビジョン	札幌市一般廃棄物処理基本計画	札幌市産業廃棄物処理指導計画	札幌市環境教育基本方針	札幌市都市計画マスタープラン	札幌市総合交通計画	札幌市みどりの基本計画	札幌水道ビジョン	札幌市下水道ビジョン	札幌市冬のみちづくりプラン	札幌市景観計画	札幌市産業振興ビジョン	さっぽろ未来創生プラン
①健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現	◎			○			○	○	○		○	○	○			○
②積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現	◎	◎	◎	○	○	○	○	◎	○		○	○			○	
③資源を持続可能に活用する循環型社会の実現	○			○	◎	◎	○	○			○					
④都市と自然が調和した自然共生社会の実現				◎			○	◎		◎	○	○		○		
⑤環境施策の横断的・総合的な取組の推進	○			○	○		◎	○							◎	○

5 SDGsとの関連性

「5つの柱」とSDGsとの関連性を記載

◆ SDGsと5本の柱との関連

5本の柱	3 健康・福祉	4 教育	6 水	7 エネルギー	8 経済成長	9 産業・技術革新	11 まちづくり	12 生産・消費責任	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸域生態系	17 パートナースhip
○健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現												
①良好な大気、水、土壌その他の環境の確保	○		○				○	○		○	○	
②積雪寒冷な地域特性も踏まえた気候変動に対する適応対策			○	○		○	○		○			
○積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現												
①徹底した省エネルギー対策の推進				○		○	○	○	○		○	
②再生可能エネルギーの導入拡大				○		○	○	○	○		○	
③水素エネルギーの活用				○		○	○	○	○			
○資源を持続可能に活用する循環型社会の実現												
①廃棄物のさらなる減量に向けた2Rの推進	○		○		○		○	○	○	○		
②資源を有効に活用するリサイクルや廃棄物の適正処理	○		○		○		○	○	○	○		
③災害廃棄物の対策や自治体間での連携						○	○	○				
○都市と自然が調和した自然共生社会の実現												
①生物多様性の保全	○		○			○	○	○	○	○	○	
②水やみどりの活用、ふれあいの促進	○		○				○				○	
③生物多様性にも配慮した良好な景観の形成			○				○		○		○	
○環境施策の横断的・総合的な取組の推進												
①幅広い世代への環境教育・学習の推進		○			○	○	○	○	○		○	○
②環境側面からの経済振興		○		○	○	○	○	○	○		○	○
③環境保全活動を通じたコミュニティの活性化の推進		○	○				○	○	○		○	○
④道内連携、様々な主体との連携の推進		○					○	○	○		○	○

(1) 環境施策の推進による経済・社会・生活への波及

将来像の実現に向けて様々な環境施策を積極的に推進することで、豊かな環境を次世代に引き継ぐと同時に、将来像で描く「豊かな暮らしの文化」が根付くことによる、「環境首都」としての誇りの醸成や、「国内外へ魅力を発信」することによる札幌のブランド力の強化、そして「エネルギーや製品の地産地消」による北海道内の経済循環など、「生活」や「社会」、そして「経済」分野における効果を同時に実現した、笑顔で暮らせる持続可能な都市を目指します。

『環境首都・SAPPORO』

豊かな環境の次世代への継承と札幌の魅力発信



『経済・社会・生活』に対する波及の同時実現

図12 施策の推進による波及効果

(2)「持続可能な開発目標（SDGs）」の視点や本計画における各主体との関わり

持続可能な都市を実現するには、市民一人ひとりが「持続可能」の意味を理解し、行動していく必要があります。国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」では、“人間中心”、“誰一人取り残さない”という理念のもと、世界中全ての人々がこの目標に向かって取り組むこととしています⁹。

都市が持続可能であるために必要な概念を整理したものが、右の模式図です。木の枝には、環境、社会、経済の三層を示す葉が繁り、木の根に最も近い枝葉の層である環境が全ての根底にあり、木を支える幹はガバナンス¹⁰を示しています。1本の木に描かれていることから、それぞれに位置するSDGsの各ゴールは、相互に関連していることがわかります。

このように、SDGsのゴールはどれか1つを目指すものではなく、相互の関係を理解し、それに関わる主体とともに取り組む必要があることから、行政のみで達成することは困難であり、企業や市民団体、そして市民など全ての主体の参加が必要となります。

環境、経済、社会を三層構造で示した木の図



資料：環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト「持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究」より環境省作成

図13 環境、経済、社会を示した木の図

6 点検・評価

環境白書の位置付けについて記載

札幌市環境白書は、札幌市環境基本条例第9条に基づき、市民に環境への負荷の状況、環境基本計画に基づき実施された施策の状況等を明らかにするため、作成しています。

次章では、第2次札幌市環境基本計画で掲げる札幌市の環境の将来像の実現に向けた5つの柱で示す2030年の姿（長期的な目標）と施策の方向に基づいて、進捗状況の点検・評価を行っており、今後の取組の推進につなげていきます。

第2章 5つの柱における取組の進捗状況

第1節 健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現

1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標

【2030年の姿】

積雪寒冷地である札幌の自然条件下で、大気、水、土壌その他の環境が安全であると市民が感じ、安心して暮らせる都市を目指します。具体的には、市民の健康が保護されるよう、大気・水・土壌その他の環境について、環境基準を超過しない良好な生活環境が確保されるとともに、市民や事業者等が円滑な情報共有のもと、一人ひとりが環境保全を意識しながら行動する姿を目指します。

また、将来の気候変動の影響にも対応した暮らしの実現を目指します。

【管理指標】

- 大気環境、騒音、河川等公共用水域における環境基準を100%達成

〈本節に関するSDGs〉



2 2030年の姿に対する現状と課題

2030年の姿にどの程度近づいているかについて記載

大気環境、騒音、河川等公共用水域における環境基準の達成度は、2018年度91.9%です。

管理指標である目標達成に向けては、引き続き定期的なモニタリングや環境汚染を引き起こす要因への対応など、良好な大気・水・土壌その他の環境確保に向けた取組が必要です。

なお、各分野ごとの環境基準達成状況は「3 主な施策の実施状況・課題の評価・今後の方向」で示します。

3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向

施策の方向に対する主な事業等の進捗状況を記載

(1) 良好な大気、水、土壌その他の環境の確保

ア 大気汚染、騒音等のモニタリングと情報提供

実績

- 大気汚染
- 騒音
- 有害化学物質等

課題・評価

今後の方向

・
・
・

イ 大気汚染、騒音等の発生源対策

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(2) 積雪寒冷な地域特性も踏まえた気候変動に対する適応対策

ア 大雨対策

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

イ 大雪対策

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

第2節 積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現

1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標

【2030年の姿】

市民・事業者が、地球温暖化の現状や省エネルギー・再生可能エネルギー促進の重要性を認識し、取組を実践している都市を目指します。具体的には、暖房エネルギーの削減や公共交通機関への利用促進といった、家庭、業務、運輸部門での温暖化対策を積極的に進め、市内の温室効果ガス排出量の大幅な削減を目指します。

【管理指標】

①札幌市内から排出される温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減

②札幌市内の電力消費量のうち、再生可能エネルギー消費量を30%に

〈本節に関するSDGs〉



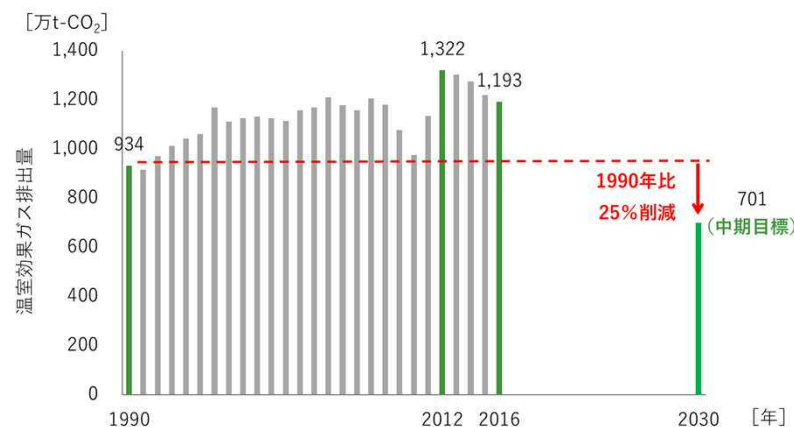
2 2030年の姿に対する現状と課題

2030年の姿にどの程度近づいているかについて記載

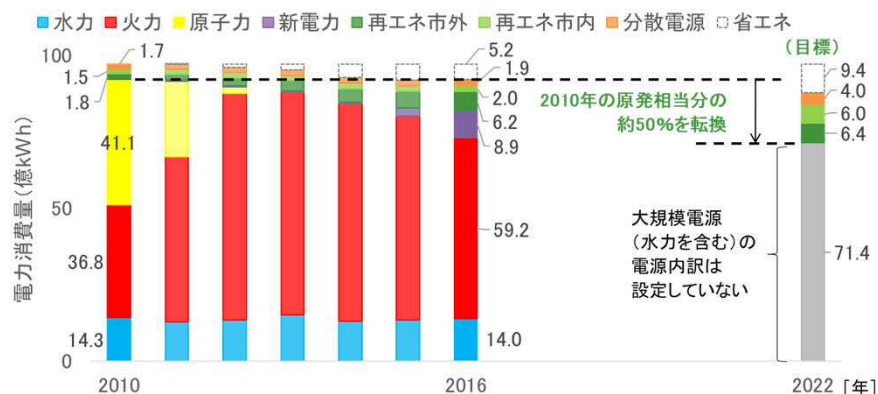
札幌市内から排出されるCO₂などの温室効果ガスは、1990年比で29.9%増加しています（2017年）。

また、札幌市内の電力消費量のうち、再生可能エネルギー消費量は、8.3%（総電力消費量92.8億kWh、うち再エネ分7.7億kWh）です（2017年）。

管理指標である目標の達成に向けては、住宅・建築物の高断熱・高気密化、設備の省エネルギー化による暖房エネルギーの削減や再生可能エネルギーの導入、自動車から公共交通機関等への転換等、省エネルギー・再生可能エネルギー促進による、さらなる取組が必要です。



(仮) 本市における温室効果ガス排出量の推移



(仮) 本市における電力消費量の推移と電源構成

3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向

施策の方向に対する主な事業等の進捗状況を記載

(1) 徹底した省エネルギーの推進

ア 住宅・建築物の省エネルギー対策

実績

- 札幌市次世代住宅基準の普及
- 建築物環境配慮制度（CASBEE札幌）の推進

課題・評価

今後の方向

・
・
・

イ 省エネルギー設備の導入や設備運用改善の推進

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(2) 再生可能エネルギーの導入促進

ア 太陽光発電や小規模風力発電等の導入促進

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(3) 水素エネルギーの活用

ア 燃料電池自動車の導入促進

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

4 主な関連計画とその進捗状況

各個別計画の進捗状況について説明文を記載

札幌市温暖化対策推進計画、札幌市役所エネルギー削減計画については、目標達成に向けてやや遅れています。

札幌市エネルギービジョン、札幌市燃料電池自動車普及促進計画、都心エネルギーマスタープランについては、目標達成に向けて概ね順調もしくは順調に進んでいます。

(1) 主な関連計画の概要

○札幌市温暖化対策推進計画(2015年3月)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」(1998年施行)で自治体へ策定が義務付けられている「地方公共団体実行計画」(区域施策編)として策定したものであり、温室効果ガス削減に係る長・中期目標を設定し、「家庭」「産業・業務」「運輸」「みどり」「廃棄物」「エネルギー」の各分野の取組を、さまざまな主体の連携により推進することで目標達成を目指すこととしている。

○札幌市役所エネルギー削減計画(2015年3月)

「地球温暖化対策の推進に関する法律」(1998年施行)で自治体へ策定が義務付けられている「地方公共団体実行計画」(事務事業編)として策定したものであり、温室効果ガスの削減のためには、エネルギーの削減に重点的に取り組むことが効果的であることから「毎年平均1%以上(2009年～2022年で13%)のエネルギー使用量の削減」という目標を設定し、市役所におけるエネルギー削減の取組を進めている。

○札幌市燃料電池自動車普及促進計画(2017年3月)

道内の水素需要を札幌から創出し、拡大することを目的として策定したものであり、地球温暖化対策や災害時の電力供給などに寄与する水素エネルギーの理解促進を図るとともに、早期の水素ステーション(ST)の導入、燃料電池自動車(FCV)の普及を促進することとしている。

○札幌市水素利活用方針(2018年5月)

地球温暖化対策や強靱化など、次世代へつなげる持続可能な社会構築に向けて、水素エネルギー利活用の当面の方向性を示したものであり、2030年頃の本格普及開始を目指し、自動車、家庭、業務・産業の3分野における普及推進を図ることとしている。また、行政機関や企業等と連携し、水素サプライチェーン構築に向けた検討を進めていくこととしている。

○都心エネルギープラン(マスタープラン:2018年3月、アクションプラン:2019年12月)

都心のまちづくりを支える環境エネルギー施策を示すものであり、目指すべき将来像、市民・民間事業者・行政が取り組む姿勢を示す理念、都心部の持続的発展を支える環境エネルギー施策を総合的かつ計画的に推進するための基本方針を明確化した「都心エネルギーマスタープラン」と、その中期的な実施計画である「都心エネルギーアクションプラン」で構成されている。「第2次都心まちづくり計画」と一体的に展開することで、まちの魅力向上と市民生活の質の向上を図り、持続的な発展へとつなげる役割を担っている。

(2) 主な関連計画の進捗状況

計画名	目標(将来像)			指標				
	内容	現状値 (2018年度)	評価	内容 ※()内は基準年	目標年	目標値	現状値 (2018年度)	評価
札幌市温暖化対策推進計画	【長期目標】 2050年に温室効果ガス排出量を1990年比で80%削減	1990年比 29.9%増(2017年) ※速報値 (1990年:934t-CO ₂ →2017年:1,213万 t-CO ₂)	△	新築戸建住宅の札幌版次世代住宅基準の適合割合(2012年:18.5%)	2030年	100%	45.1%(2017年)	◎
				全世帯に対する高効率給湯機器設置の割合(2012年:3%)	2030年	87%	8%(2017年)	▲
				全世帯に対する高効率暖房機器設置の割合(2012年:3%)	2030年	71%	7%(2017年)	▲
				家庭における太陽光発電の導入量(2012年:1.4万kW)	2030年	53.8万kW	3.6万kW(2017年)	▲
				家庭用分散型電源システムによる発電量(2012年:0.02億kWh)	2030年	1.9億kWh	0.07億kWh(2017年)	▲
	【中期目標】 2030年に温室効果ガス排出量を1990年比で25%削減	1990年比 29.9%増(2017年) ※速報値 (1990年:934t-CO ₂ →2017年:1,213万 t-CO ₂)	△	環境配慮行動の実践率(2012年:61%)	2030年	90%	62%(2017年)	▲
				事務所、工場などにおける太陽光発電の導入量(2012年:0.4万kW)	2030年	8.1万kW	1.6万kW(2017年)	▲
				事業用分散型電源システムによる発電量(2012年:1.7億kWh)	2030年	4.3億kWh	2.0億kWh(2017年)	▲
				産業・業務の電力需要量(2012年:58.2億kWh)	2030年	52.7億kWh	56.7億kWh(2017年)	○
				次世代自動車導入台数(2012年:4万台)	2030年	31万台	11.9万台(2017年)	◎
札幌市役所エネルギー削減計画	毎年平均1%以上 (2009年～2022年で13%)の エネルギー使用量の削減	2009年比2.5%減 (2009年:215,331kL →2018年: 209,985kL)	△	エコドライブの実践率(2012年:15%)	2030年	乗用25% 貨物40%	乗用31%(2017年) 貨物33%(2017年)	◎
				公共交通に対する満足度(2012年:74.7%)	2030年	90%	64.4%(2017年)	▲
札幌市エネルギービジョン	電力消費量を2022年度に 2010年度比10%削減 ※2030年度に16%削減	2010年比4.6%減(2017年) ※速報値 (2010年:95.5億kWh→ 2017年:91.1億kWh)	○					
	熱利用エネルギー消費量を 2022年度に2010年度比15%削減 ※2030年度に26%削減	2010年比7.6%減 (2017年)※速報値 (2010年:58,597TJ→ 2017年:54,156TJ)	○					
札幌市燃料電池自動車普及促進計画	FCV普及累計台数(2030年度:3000台)	11台	○					
	水素ステーションの整備箇所数(2030年度:4箇所以上)	1箇所	○					
都心エネルギーマスタープラン	2050年のCO ₂ 排出量を 2012年比で80%削減	—	—	地域熱供給の熱のCO ₂ 排出係数(2012年:0.065kg-CO ₂ /MJ)	2023年	0.059kg-CO ₂ /MJ以下 (2012年比9%以上削減)	0.0531kg-CO ₂ /MJ	◎

◎…目標達成に向けて順調 ○…目標達成に向けて概ね順調 △…目標達成に向けてやや遅れている ▲…目標達成に向けて遅れている —…評価不可

第3節 資源を持続可能に活用する循環型社会の実現

1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標

【2030年の姿】

市民が3Rについての認識を持ち、日々の暮らしの中で実践しているとともに、事業者は事業活動における資源保全に責任を持ち、資源循環に資する製品やサービスを提供している都市を目指します。具体的には、3Rの重要性についての理解の促進や、持続可能な消費行動の喚起に向けた取組、さらには各主体と連携した適正処理の推進により、資源の持続可能な循環を目指します。

【管理指標】

- 市内で排出されるごみの量を大幅に削減し、資源の消費抑制を図る。

〈本節に関するSDGs〉

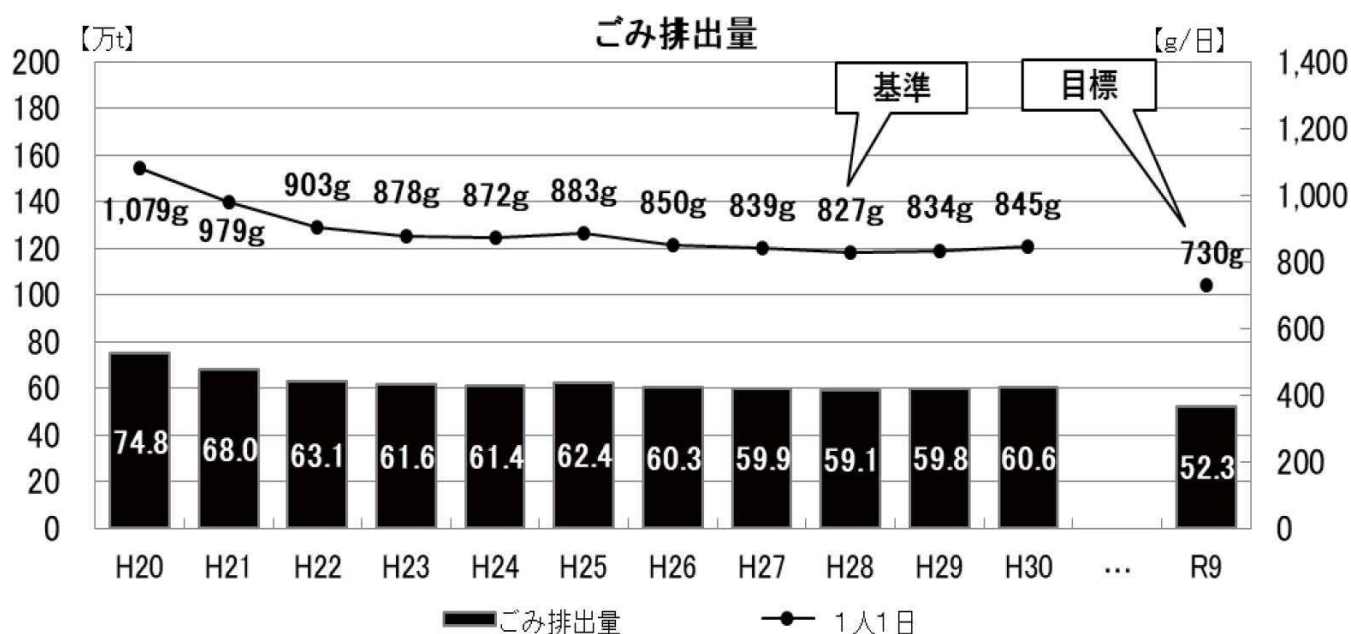


2 2030年の姿に対する現状と課題

2030年の姿にどの程度近づいているかについて記載

市内で排出されるごみの量は、2018年度60.6万tで、2016年度59.1万tの基準から1.5万t増加しています。

管理指標である目標の達成に向けては、さらなるゴミ減量や分別の取組を進めるとともに、廃棄ゴミだけでなく、資源物も合わせたごみ量全体を削減し、そのうえでリサイクルを推進することが必要です。



(仮) ごみ排出量の推移

3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向

施策の方向に対する主な事業等の進捗状況を記載

(1) 廃棄物のさらなる減量に向けた2Rの推進

ア 市民や事業者におけるごみ減量や食品ロス削減の推進

実績

○家庭ごみ減量の推進

○事業者との連携

課題・評価

今後の方向

・
・
・

イ 市民や事業者におけるリユース（再使用）行動の促進

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(2) 資源を有効に活用するリサイクルや廃棄物の適正処理の推進

ア 家庭ごみや事業ごみの適正な分別

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(3) 災害廃棄物の対策や自治体間での連携

ア 災害に強い廃棄物処理体制の構築

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

4 主な関連計画とその進捗状況

各個別計画の進捗状況について説明文を記載

新スリムシティさっぽろ計画については、目標達成に向けてやや遅れています。
産業廃棄物処理指導計画については、目標達成に向けて概ね順調または順調に進んでいます。

(1) 主な関連計画の概要

○新スリムシティさっぽろ計画(札幌市一般廃棄物処理基本計画:2018年3月)

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(1970年施行)に基づき、市町村は生活環境の保全や公衆衛生の向上を維持するため、区域内の一般廃棄物の処理について、概ね10年先を見据えた長期計画としての「一般廃棄物処理基本計画」の策定を義務付けられている。

札幌市の一般廃棄物処理基本計画にあたる「新スリムシティさっぽろ計画」では、2027年度までに1人1日当たりのごみ排出量を、2016年度を基準に100g減量する目標を掲げており、環境への負荷が少なく資源の有効活用にも効果的な2R(リデュース・リユース)のごみ減量施策を推進するとともに、持続可能な収集・処理体制を確保していくこととしている。

○産業廃棄物処理指導計画(2016年3月)

持続可能な環境保全型のまちづくりの実現に向けて、産業廃棄物排出事業者及び処理事業者に対して行う指導の方向性や施策を示したものであり、札幌市内で発生する産業廃棄物の発生抑制、リサイクル、適正処理等を推進していくこととしている。

(2) 主な関連計画の進捗状況

計画名	目標(将来像)			指標				
	内容	現状値 (2018年度)	評価	内 容 ※()内は基準年	目標年	目標値	現状値 (2018年度)	評価
新スリムシティ さっぽろ計画 (札幌市一般 廃棄物処理基 本計画)	・ごみ排出量(2016年度比6.8万トン以上減量 ※2016年度:59.1万t→2027年度:52.3万t)	60.6万t	△	家庭から出る食品ロス量(2016年度:1.9万t) ※モニター指標のため目標値なし			2.0万t	
	・廃棄ごみ量(2016年度比6.0万トン以上減量 ※2016年度:47.4万t→2027年度:41.4万t)	49.0万t	△	燃やせるごみに含まれる紙類と容器包装プラスチックの量 (2016年度:4.1万t)※モニター指標のため目標値なし			3.8万t	
	・家庭から出る廃棄ごみ量(340g以下 ※2016年度:386g/人・日→2027年度:340g/人・日)	391g/人・日	△	リサイクル率(2016年度:27.9%) ※モニター指標のため目標値なし			25.9%	
	・家庭から出る生ごみ量(2016年度比1.0万トン以上減量 ※2016年度:9.6万t→2027年度:8.6万t)	9.9万t	△					
	埋立処分量(2016年度比2.2万トン以上減量 ※2016年度:8.7万t→2027年度:6.5万t)	8.9万t	△					
産業廃棄物処 理指導計画	産業廃棄物排出量 (2013年度:289.3万t→2020年度:290.0万t)	286.8万t(2016年度)	◎					
	産業廃棄物最終処分量 (2013年度:10.1万t→2020年度:9.0万t)	8.9万t(2016年度)	◎					
	産業廃棄物再生利用率 (2013年度:73.7%→2020年度:75.0%)	76.1%(2016年度)	◎					
	産業廃棄物市内中間処理率 (2013年度:86.1%→2020年度:88.0%)	87.3%(2016年度)	○					
	産業廃棄物市域外最終処分量 (2013年度:5.6万t→2020年度:5.0万t)	5.1万t(2016年度)	○					

◎…目標達成に向けて順調 ○…目標達成に向けて概ね順調 △…目標達成に向けてやや遅れている ▲…目標達成に向けて遅れている ……評価不可

第4節 都市と自然が調和した自然共生社会の実現

1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標

【2030年の姿】

市民・事業者が、豊かな自然の成り立ちや生物多様性について理解し、自然環境や景観に配慮したライフスタイルや事業活動を実践している都市を目指します。具体的には、生物多様性の保全に関する理解の促進や、地域の自然の特徴に合わせた適切な自然環境の保全を進めることで、自然との共生を目指します。

【管理指標】

- 生物多様性に対する市民の理解度を80%に

〈本節に関するSDGs〉



2 2030年の姿に対する現状と課題

2030年の姿にどの程度近づいているかについて記載

生物多様性に対する市民の理解度は、2018年度33.5%です。

管理指標である目標の達成に向けては、生物多様性の保全に関する環境教育などの普及啓発やデータの蓄積、適切な自然環境の保全など、さらなる取組が必要です。

(仮) 生物多様性に対する市民の理解度の推移

施策の柱	指標	基準値 (平成23年度)	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	目標値 (平成32年度)
理解する	生物多様性の理解度 (意味を知っている人の割合)	33.1%	28.8%	36.6%	33.7%	34.8%	28.6%	33.5%	60%

3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向

施策の方向に対する主な事業等の進捗状況を記載

(1) 生物多様性の保全

ア 生物多様性の理解向上・保全に向けた行動促進

実績

○さっぽろ生き物さがし2018

○生物多様性フォーラム

課題・評価

今後の方向

・
・
・

イ 野生鳥獣（ヒグマ、エゾシカ等）に対する市街地侵入抑制や被害防止対策

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(2) 水やみどりの活用、ふれあいの促進

ア みどりの保全・創出

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(3) 生物多様性にも配慮した良好な景観の形成

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

4 主な関連計画とその進捗状況

各個別計画の進捗状況について説明文を記載

生物多様性さっぽろビジョンについては、一部目標達成に向けて順調に進んでいますが、その他はやや遅れているまたは遅れています。

さっぽろヒグマ基本計画には、目標・指標となるものが設定されていません。

(1) 主な関連計画の概要

○生物多様性さっぽろビジョン(2013年3月)

生物多様性の保全に関する取組の方向性を示す長期的な指針として策定したものであり、「北の生き物と人が輝くまち さっぽろ」の理念のもと、市民やNPO、事業者などのあらゆる主体と連携しながら、札幌市の自然環境を保全するとともに、市民一人ひとりのライフスタイルの見直しを進めていくこととしている。

○さっぽろヒグマ基本計画(2017年3月)

札幌市域における生物多様性の保全を前提とし、ヒグマとのあつれきを軽減することで、市民生活の安全確保を図りながら、ヒグマとの共生を目指すことを目的として策定した、札幌市独自の計画である。

家庭用電気柵の普及やヒグマの侵入経路となり得る河畔林等の下草刈りなどの市街地侵入抑制策に重点を置き、出沒対策の充実とヒグマとの共生を総合的に進めていくこととしている。

(2) 主な関連計画の進捗状況

計画名	目標(将来像)			指標				
	内容	現状値 (2018年度)	評価	内容 ※()内は基準年	目標年	目標値	現状値 (2018年度)	評価
生物多様性 さっぽろ ビジョン	豊かな生物多様性と共生する 都市づくり			生物多様性の理解度(2011年度:33.1%)	2020年度	60%	33.5%	▲
				生物多様性保全活動に参加したり、取り組んでいる 市民・事業者の割合 (2011年:市民5.6%、事業者:40.4%)	市民:2020年度 事業者:2015年度	市民:10% 事業者:60%	市民:3.1%(2017年度) 事業者:51.1%	▲ △
				主な生息・生育地における指標種の生息状況	2020年度	生息し続けている、 又は増えている	—	—
	環境首都・札幌にふさわしい 生物多様性に配慮した ライフスタイルの実践			自然と積極的に触れ合っている市民の割合 (2011年度:24.2%)	2020年度	35%	27%(2017年度)	△
				市民の地産地消や環境配慮商品の利用率 (2011年度:地産地消65.7%、環境配慮商品27.4%)	2020年度	地産地消:75% 環境配慮商品:50%	地産地消:60.7% (2017年度) 環境配慮商品: 18.1%(2017年度)	▲ ▲
	自然環境と一体となった文化や知恵、 景観など、伝統資源の継承及び創造			事業者の原材料調達時の (生物多様性への)配慮率(2011年度:30.0%)	2020年度	50%	52.6%	◎
さっぽろヒグマ 基本計画	被害の防止のあつれきの軽減(目指す姿)							
	市民のヒグマへの意識及び 理解の向上(目指す姿)							
	侵入抑制策の推進(目指す姿)							

◎…目標達成に向けて順調 ○…目標達成に向けて概ね順調 △…目標達成に向けてやや遅れている ▲…目標達成に向けて遅れている —…評価不可

第5節 環境施策の横断的・総合的な取組の推進

1 将来像の実現に向けた2030年の姿と管理指標

【2030年の姿】

市民・事業者が本計画で目指す将来像について理解し、行動・活動している都市を目指します。具体的には、「持続可能な都市」についての理解を進めるための環境教育・学習の推進や、産学官民が連携した環境保全対策を進めることで、将来像の実現に向けてすべての主体が環境保全対策に取り組み、経済や社会の好循環を目指します。

【管理指標】

①多くの市民が本計画で目指す「持続可能な都市」について理解し、自ら行動している。

②北海道内の資源やエネルギーの地産地消を促進するため、札幌市と道内自治体をはじめ、様々な主体による連携が普及している。

〈本節に関するSDGs〉



2 2030年の姿に対する現状と課題

2030年の姿にどの程度近づいているかについて記載

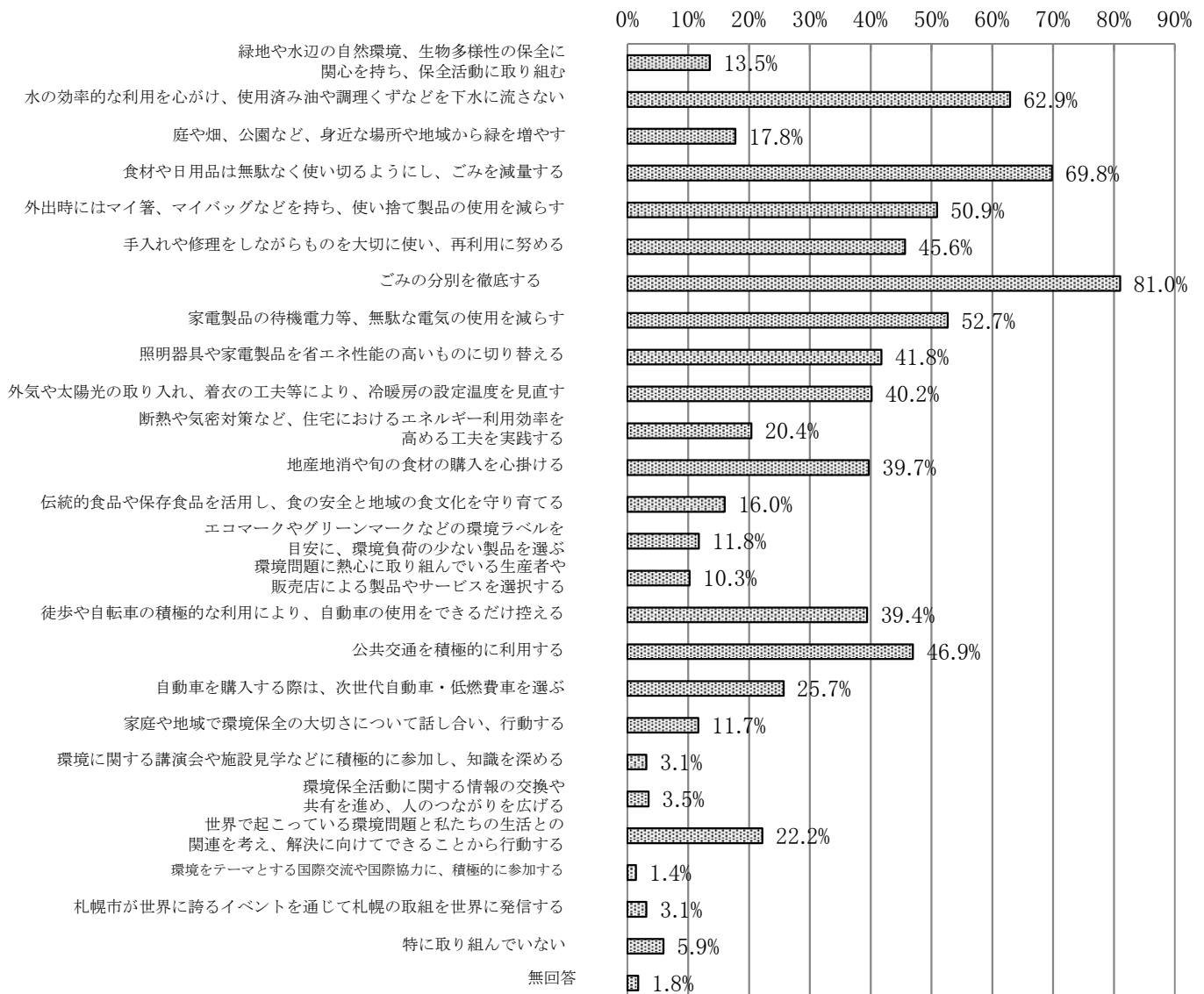
第2次札幌市環境基本計画で示す「持続可能な都市」について理解し、自ら行動できる取組として掲げる“地球を守るためのプロジェクト・札幌行動～市民行動編”のうち、よく取り組まれている項目は、「ごみの分別を徹底する（81%）」、「食材や日用品は無駄なく使い切るようにし、ごみを減量する（69.8%）」、「水の効率的な利用を心がけ、使用済み油や調理くずなどを下水に流さない（62.9%）」など、省資源・循環型社会の分野です。

一方、あまり取り組まれていない項目は、「環境に関する講演会や施設見学などに積極的に参加し、知識を深める（3.1%）」、「札幌市が世界に誇るイベントを通じて札幌の取組を世界に発信する（3.1%）」、「環境をテーマとする国際交流や国際協力に積極的に参加する（1.4%）」など、教育・学習・人づくりや地球的視点と平和の分野です。

また、札幌市と道内自治体をはじめとした様々な主体による連携を普及させるため、連携体制の構築へ向け、検討を進めています。

管理指標の達成に向けては、引き続き市民や事業者、行政が一体となって5つの柱に定めた施策の方向に積極的に取り組んでいく必要があります。

■R元年度(N=1,063)



(仮) 令和元年度札幌市の温暖化対策推進に関する調査結果
 (「『持続可能な都市』を実現するために『第2次札幌市環境基本計画』で示す“地球を守るためのプロジェクト・札幌行動～市民行動編”を実践していますか。」に対する回答)

3 施策の実施状況・課題と評価・今後の方向

施策の方向に対する主な事業等の進捗状況を記載

(1) 幅広い世代への環境教育・学習の推進

ア 学校・地域・企業等で行われる環境教育活動への支援の充実

実績

○人材派遣事業（環境保全アドバイザー制度、環境教育リーダー制度）

○エコライフレポート

課題・評価

今後の方向

・
・
・

イ 人材育成、市民・事業者等の協働による環境保全活動の推進

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(2) 環境側面からの経済振興

ア 環境産業の振興

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(3) 環境保全活動を通じたコミュニティの活性化の推進

ア 環境保全対策に資する地域活動の拡充

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

(4) 道内連携、様々な主体との連携の推進

ア 環境保全活動を通じた道内事業者への支援の拡充

実績

課題・評価

今後の方向

・
・
・

4 主な関連計画とその進捗状況

各個別計画の進捗状況について説明文を記載

札幌市環境教育・環境学習基本方針には、目標・指標となるものが設定されていません。
札幌市産業振興ビジョンについては、市内従業者数については目標値に対してやや遅れています、市内企業の売上高は順調に進んでいます。

(1) 主な関連計画の概要

○札幌市環境教育・環境学習基本方針(2019年3月)

持続可能な社会の実現に向けて、札幌市の環境教育・環境学習の基本的な考えや、取組の方向性を示すものであり、「みらいを想い、みんなを思い、真剣に考え行動できる環境市民を育てます」を基本理念としている。未来のことを想像し、周りのことを地球環境のことを考え、自ら判断し取り組む「環境市民」を、学びを通して増やしていくこととしている。

○札幌市産業振興ビジョン改定版(2017年1月)

札幌市中小企業振興条例に基づき策定した中小企業振興施策の総合的な計画である。雇用の場を確保・創出し、市民に働く機会を提供するとともに、企業活動の活発化を通じて、企業の売上増加や就業者の収入増加を図り、足腰の強い経済基盤の確立や札幌市の財政力を強化していくこととしている。

(2) 主な関連計画の進捗状況

計画名	目標(将来像)			指標				
	内容	現状値 (2018年度)	評価	内容 ※()内は基準年	目標年	目標値	現状値 (2018年度)	評価
札幌市環境教育・環境学習基本方針	市民が「持続可能な都市とは何か」について理解している(将来像)							
	市民が札幌の環境の良さを実感し、自ら環境を改善する行動を選択し、周囲の人たちの行動にも良い影響を与えている(将来像)							
	環境配慮行動を認識するための場、考える機会が十分に提供されている(将来像)							
札幌市産業振興ビジョン	・市内従業者数(民間) (2014年:858,000人→2021年:900,000人)	838,911人(2016年度)	△					
	・市内企業の売上高 (2014年:15兆7,794億円→2021年:16兆8,500億円)	21兆1,623億円(2016年度)	◎					

◎…目標達成に向けて順調 ○…目標達成に向けて概ね順調 △…目標達成に向けてやや遅れている ▲…目標達成に向けて遅れている ……評価不可